



営業本部 関西営業所 Tel: 06-6412-5851 Fax: 06-6413-1803
〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町86番地

仙台営業所 Tel: 022-390-7210 Fax: 022-287-5655
〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井7丁目20-13

関東営業所 Tel: 03-5959-0883 Fax: 03-5959-0880
〒114-0016 東京都北区上中里2丁目37番3号

中部営業所 Tel: 052-679-5340 Fax: 052-679-5341
〒456-0013 名古屋市中区外土居町9番14号(トキワ外土居ビル)

九州営業所 Tel: 096-293-0200 Fax: 096-293-0301
〒869-1236 熊本県菊池郡大津町杉水字一ノ迫3019-1

●●● グループ会社 ●●●

東北スイコー株式会社
Tel: 0197-66-5055 Fax: 0197-66-5054
岩手県北上市村崎野14地割455番地11

北海道スイコー株式会社
Tel: 011-398-5510 Fax: 011-398-5522
北海道札幌市西区宮の沢1条3丁目4-12

・製品は印刷により、多少実物と異なる場合があります。
・カタログ記載事項は改良のため、お断りなく一部変更する場合があります。

令和7年04月作成



スイコータンク

取扱説明書

荷受・設置をされるお客様へ
タンクを使用されるお客様へ

取扱い・使用上のご注意



荷受・設置をされるお客様へ

1. 設置手順

製品寸法・重量一覧	P.02
荷受時の点検	P.03
タンクの取扱について	P.03
荷下ろし手順について	P.04
○ 全ての保護柵付タンク	P.04
○ MC タンク	
3000以下	P.05 1段目
4000～6000	P.05 2段目
8000以上	P.05 3段目
○ UL タンク	
3000以下	P.05 1段目
4000～6000	P.06 2段目
8000以上	P.07 1段目
○ LA タンク	
3000以下	P.05 1段目
4000～6000	P.06 2段目
8000～20000	P.07 1段目
30000	P.07 2段目
○ CT タンク	
4000	P.06 2段目
6000～10000	P.07 1段目
○ HT タンク	
3000以下	P.07 3段目
4000～6000	P.09 1段目
10000以上	P.09 2段目
○ OHT タンク	
全サイズ	P.07 3段目
○ MH タンク	
3000以下	P.05 1段目
4000～6000	P.05 2段目
8000以上	P.05 3段目
○ MTF タンク	
全サイズ	P.09 3段目
○ MTT タンク	
全サイズ	P.10 3段目
設置について	P.11
部品(付属品)について	P.11
配管・サポートについて	P.12

タンクを使用されるお客様へ

2. 使用上の注意

ご使用の前に	P.13
○ 使用条件の確認	
○ 水張りテスト	
○ エア抜き	
禁則事項	P.13
○ 火気について	
○ 衝撃について	
○ 荷重について	
○ 設置後の移動について	
ローリー車からの充填	P.14
耐熱仕様タンク特記事項	P.14
使用条件の変更について	P.14

3. 保守点検

点検時の注意事項	P.15
○ 酸欠・中毒事故防止	
○ 転落・傷害事故防止	
点検実施項目	P.16
○ 日常点検	
○ 月次点検	
○ 年次点検	

4. アフターサービス

リサイクル処分について	P.17
タンク劣化診断 (FT-IR)	P.17

■ 製品寸法・重量一覧

※寸法公差±1.5%

品番	外形φ(mm)	全高(mm)	重量(kg)
MC-50000	3,270	6,975	3,280
MC-40000	2,910	7,005	2,880
MC-30000	2,860	5,750	2,270
MC-20000	2,710	4,260	1,160
MC-15000	2,600	3,540	950
MC-10000	2,280	3,190	700
MC-8000	2,170	3,005	570
MC-6000	1,922	2,800	430
MC-5000	1,890	2,480	370
MC-4000	1,740	2,370	350
MC-3000	1,625	2,080	290
MC-2000	1,420	1,850	210
MC-1500	1,290	1,635	120
MC-1000	1,106	1,425	90
MC-750	1,026	1,260	70
MC-500	1,000	905	50
MC-300	760	940	40
MC-200	670	800	30
UL-20000	2,710	4,260	900
UL-15000	2,600	3,540	780
UL-10000	2,280	3,190	520
UL-8000	2,170	3,005	430
UL-6000	1,922	2,800	330
UL-5000	1,890	2,480	270
UL-4000	1,740	2,370	240
UL-3000	1,625	2,080	120
LA-30000	2,860	5,750	1,740
LA-20000	2,710	4,260	910
LA-15000	2,600	3,540	790
LA-10000	2,280	3,190	530
LA-8000	2,170	3,005	440
LA-6000	1,922	2,800	330
LA-5000	1,890	2,480	270
LA-4000	1,740	2,370	240
LA-3000	1,625	2,080	130
LA-2000	1,420	1,850	90
CT-10000	2,000	3,960	600
CT-6000	1,700	3,335	360
CT-4000	1,560	2,735	270

品番	外形φ(mm)	全高(mm)	重量(kg)
HT-40000	3,270	6,600	3,930
HT-30000	2,910	6,500	2,880
HT-20000	2,840	4,695	1,590
HT-10000	2,360	3,865	1,150
HT-6000	2,010	3,230	680
HT-5000	1,890	3,125	630
HT-4000	1,740	2,920	460
HT-3000	1,620	2,610	380
HT-2000	1,420	2,260	240
HT-1000	1,120	1,915	160
HT-500	1,000	1,525	100
HT-300	700	1,120	40
HT-200	600	1,010	30
HT-100	600	660	20
OHT-3000	1,620	2,300	300
OHT-2000	1,420	1,960	230
OHT-1000	1,120	1,700	150
OHT-500	1,000	1,310	110
MH-15000	2,600	3,150	740
MH-10000	2,280	2,800	570
MH-8000	2,170	2,465	460
MH-6000	1,922	2,395	340
MH-5000	1,890	2,095	290
MH-4000	1,740	1,985	270
MH-3000	1,625	1,680	210
MH-2000	1,420	1,560	140
MH-1000	1,060	1,250	80
MH-500	900	870	50
MH-300	710	870	20
MH-200	570	890	10
MH-100	440	745	10
MH-50	390	510	10
MTF-3000	2,000	1,320	150
MTF-2000	1,800	1,100	100
MTT-3000	2,130	1,952	470
MTT-2000	1,930	1,692	270

※上記一覧表の重量は「本体」+「付属品」に安全率を掛けた、荷下ろし作業用の目安重量となります。

1 設置手順

荷受時の点検

- (1) タンク・付属部品に輸送中の破損が無いか確認して下さい。
- (2) ステンレス製補強枠の養生シートはタンク到着後速やかに剥がして下さい。
時間が経つと剥がれにくくなります。
- (3) 付属部品は別梱包になっていますので、すべて揃っているか確認して下さい。
(タンクの中に部品を入れて納入する場合があります。)
- (4) タンク底面が波打っている場合がありますが、品質に問題はありません。

タンク取扱いについて (荷下ろし、仮置き、吊り上げ)

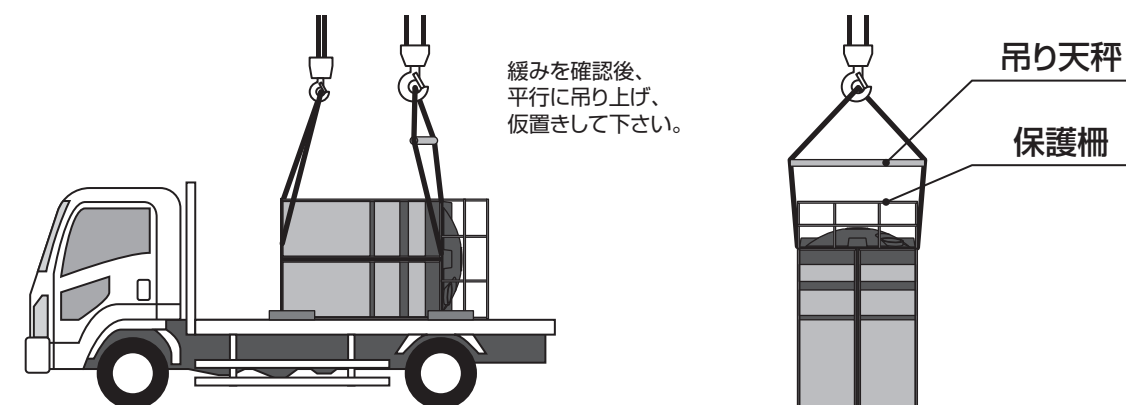
- (1) 安全かつ確実な作業を行うため、下記項目の確認・点検をして下さい。
 - ・ 運搬・吊り上げ用器材の点検
 - ・ 製品の点検 (寸法・重量の確認、P02 及び納入図面をご確認下さい。)
 - ・ 通路・作業空間・範囲の確認
 - ・ 置き場・置き台の点検
 - ・ クレーン設置場所の地盤耐力の確認
- (2) 作業上の注意事項
 - ・ タンク取扱い作業は玉掛け技能修了者が行って下さい。
 - ・ タンクに吊り金具が付いている場合は吊り上げ・吊り下ろしは吊り金具の全数を使用して下さい。
 - ・ タンクへの玉掛け作業は、タンクに直接ワイヤーが当たらないように必ずヤワラを使用して下さい。また直接胴巻きを行う場合はナイロンスリングを使用して下さい。
 - ・ ワイヤーやスリングベルトの吊り角度は 60°以下で行って下さい。
 - ・ タンクのノズル及び付属品が変形・破損しないように十分な保護養生をして下さい。
 - ・ 保護柵、攪拌機架台など付属品が変形・破損しないように十分な保護養生をして下さい。
 - ・ タンクは立てた状態で保管して下さい。
- (3) ユニック作業について

ユニック作業はタンクをトラックの横に下ろすだけ (仮置き) の作業です。
設置作業は行いません。設置作業はレッカー車を手配して下さい。
尚、MC・UL 型 15000 以上のタンク及び HT10000 以上のタンクはユニック車で荷下ろし作業はできません。荷下ろし・設置作業はレッカー車を手配して下さい。
- (4) 荷下ろし作業について
 - ・ フォークリフト技能修了者・玉掛け技能修了者が必ず作業を行って下さい。
 - ・ タンクノズル (天板・側面・底面) の破損に注意して作業して下さい。
 - ・ フォークリフトで作業する際は、タンクの幅以上の長さの爪で行って下さい。
 - ・ ワイヤーをセットして平行に吊り上げを確認後、作業して下さい。

荷下ろし手順

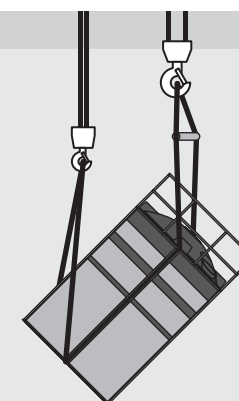
○ 全ての保護柵付きタンク立ち上げの注意点

- ※ 保護柵付きのタンクの立ち上げには、必ず「吊り天秤」をご使用下さい。
- ※ 「吊り天秤」はお客様にてご準備下さい。
- ※ ノズル破損注意



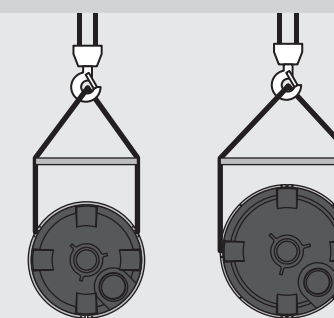
立ち上げ作業

地切り後、徐々に親フックを引き上げ、子フックを下げながらタンクを立てて下さい。



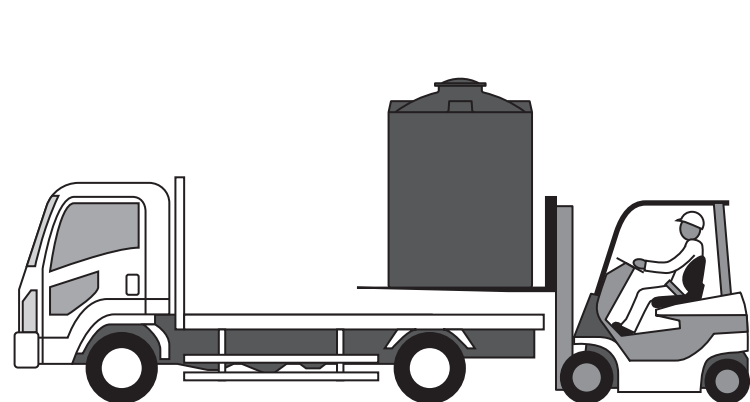
ワイヤー取付例

ワイヤーの取り付け位置は各製品のページを必ずご確認ください。



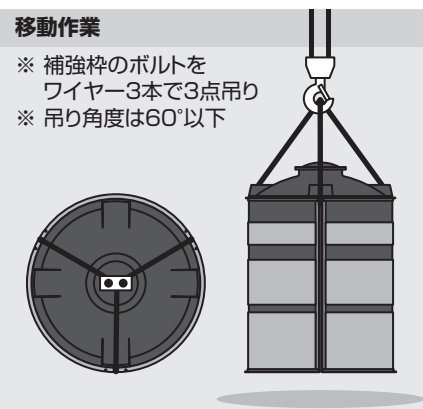
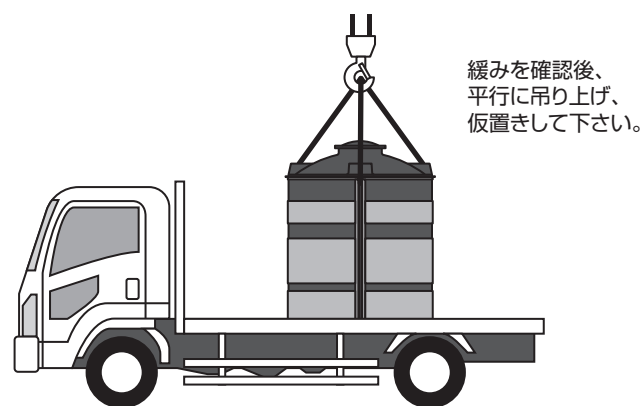
○ MC / UL / LA / MH 3000 以下

- ※ フォークリフトの爪の長さ注意 (タンク幅以上の長さで作業をお願いします。)
- ※ ノズル破損注意



○ MC / MH 4000 ~ 6000

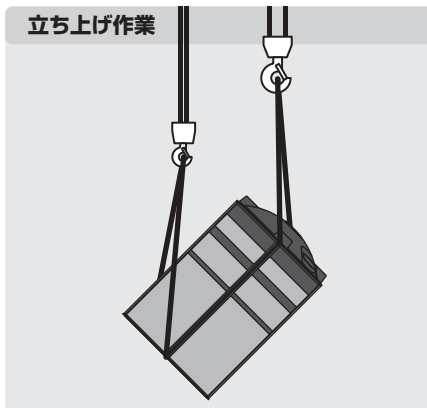
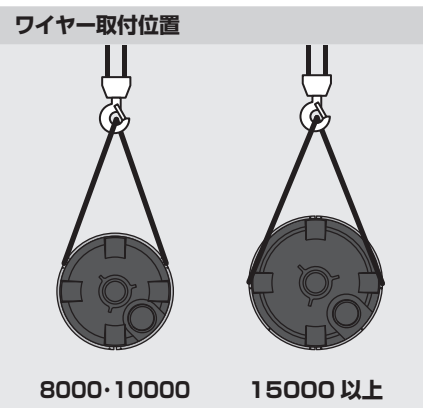
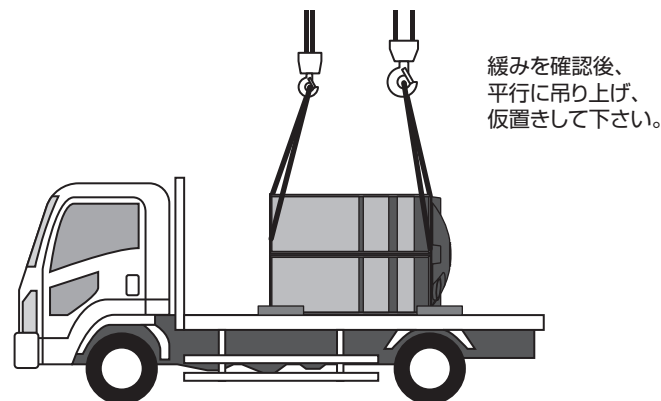
- ※ 補強枠のボルトをワイヤー3本で3点吊り
- ※ ノズル破損注意



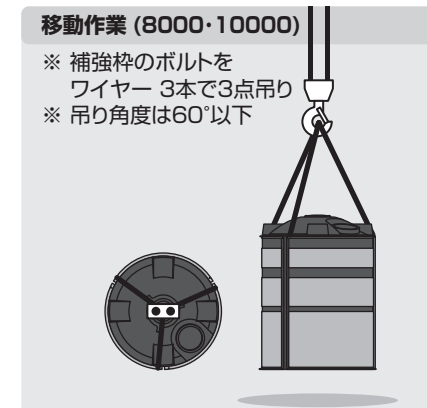
平行に吊り上げを確認後、移動を行って下さい。

○ MC / MH 8000 以上

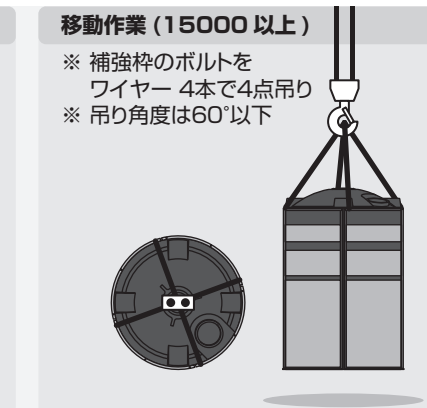
- ※ 補強枠のボルトをワイヤー2本で2点吊り (親フック) / 補強枠のボルトをワイヤー2本で2点吊り (子フック) の4点吊り (吊り金具が標準装備の製品は吊り金具を使用)
- ※ ノズル破損注意



地切り後、徐々に親フックを引き上げ、子フックを下げながらタンクを立てて下さい。

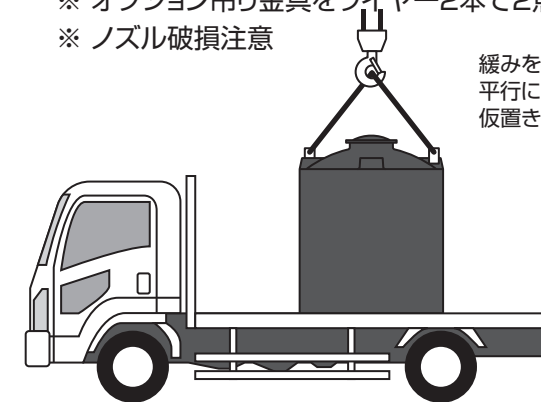


平行に吊り上げを確認後、移動を行って下さい。



オプション吊り金具の場合 (MC / UL / LA 1000~3000)

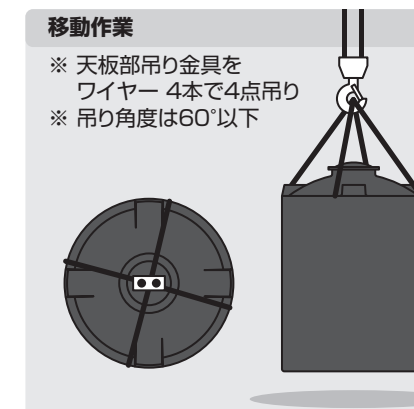
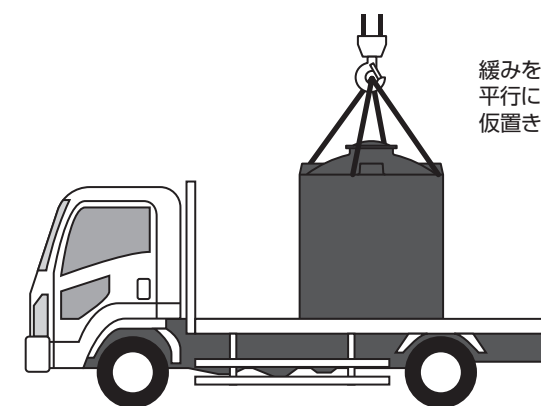
- ※ 設置後、オプションの吊り金具は必ず外して下さい。
- ※ オプション吊り金具をワイヤー2本で2点吊り
- ※ ノズル破損注意



平行に吊り上げを確認後、移動を行って下さい。

○ UL / LA 4000 ~ 6000 ○ CT 4000

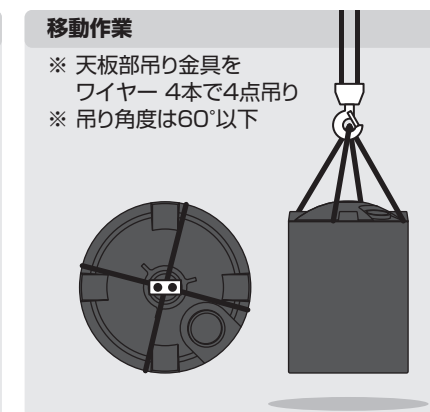
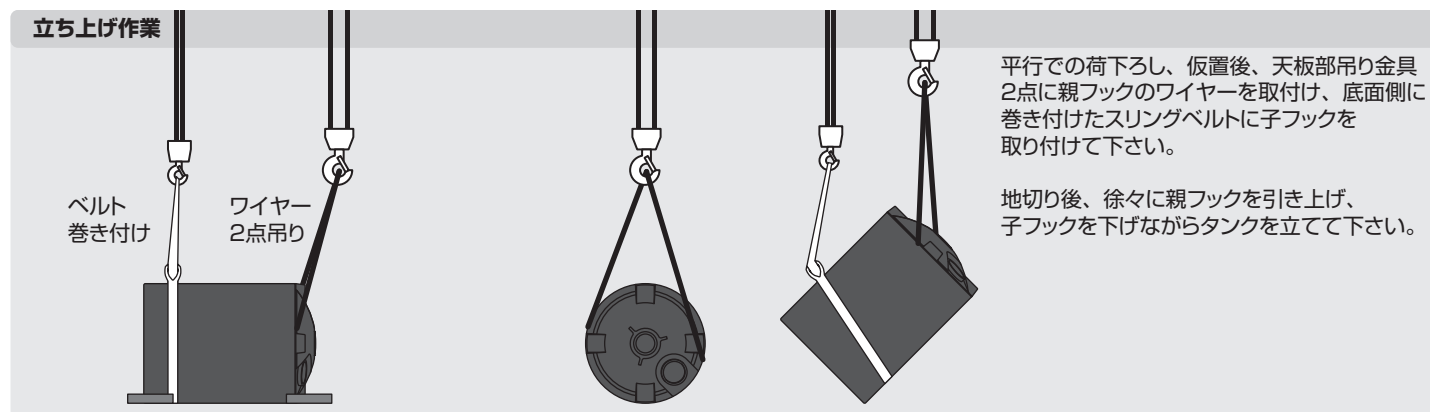
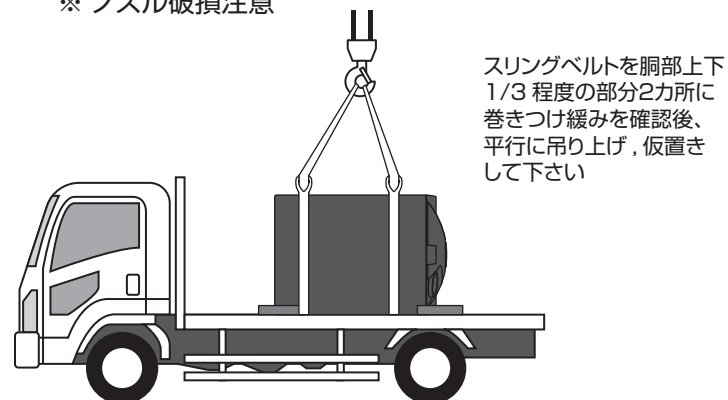
- ※ 天板部吊り金具をワイヤー4本で4点吊り
- ※ ノズル破損注意



平行に吊り上げを確認後、移動を行って下さい。

○ UL 8000 以上 ○ LA 8000 ~ 20000 ○ CT 6000 ~ 10000

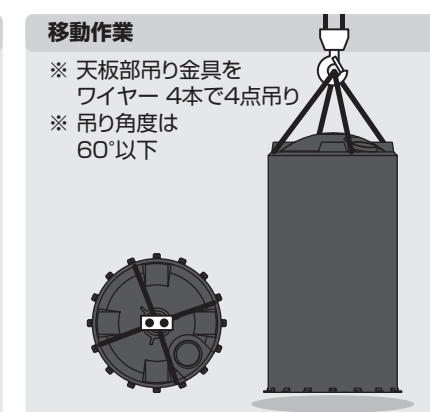
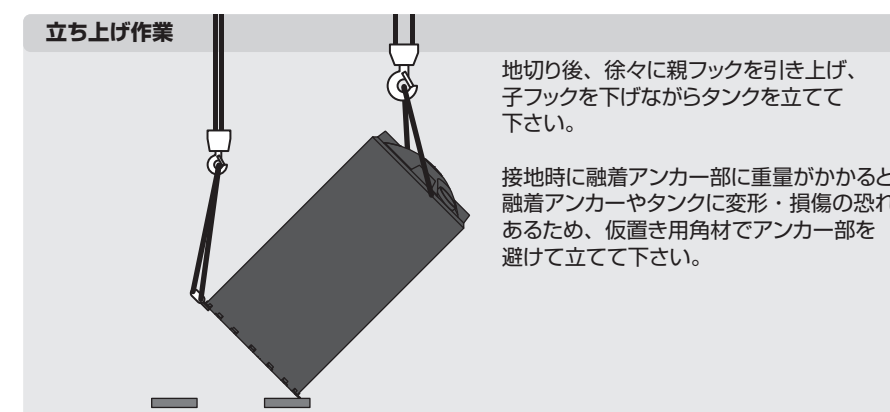
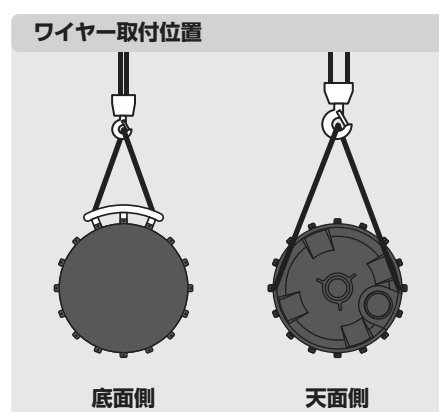
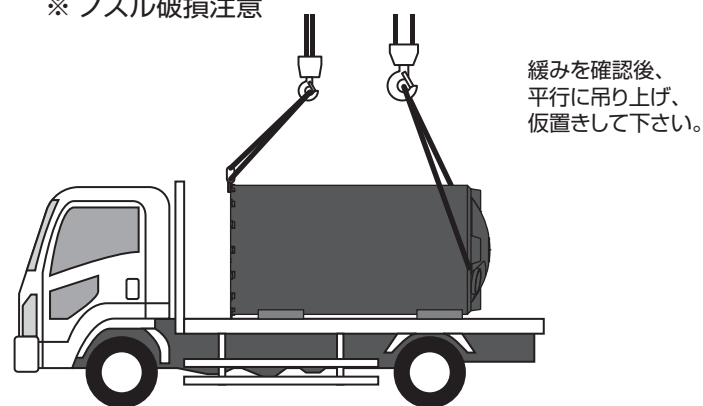
- ※ 荷下ろし時：スリングベルト2本で2点吊り
- ※ 立ち上げ時：天板部吊り金具をワイヤー2本で2点吊り（親フック） / 底面側スリングベルト吊り（子フック）の3点吊り
- ※ ノズル破損注意



平行に吊り上げを確認後、移動を行って下さい。

○ LA 30000

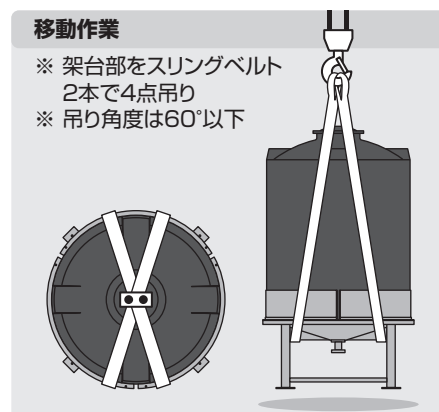
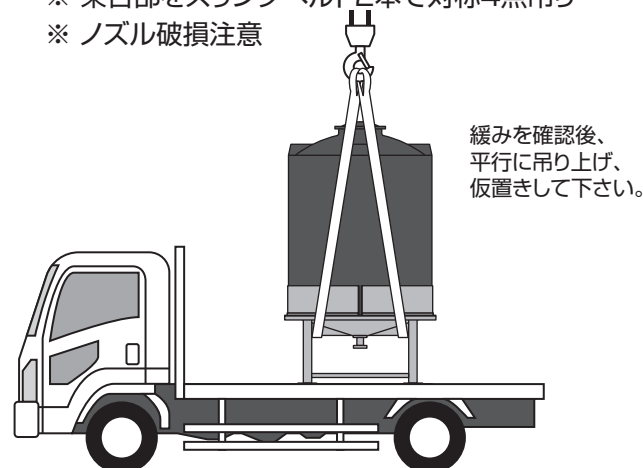
- ※ 天板部吊り金具をワイヤー2本で2点吊り（親フック） / 底面部専用治具をワイヤー2本で2点吊り（子フック）の4点吊り
- ※ 右記荷下ろし作業用貸出品は設置後速やかにお返し下さい。（天板用シャックル付きワイヤー4本 / 底面部 専用治具1個 / 底面部用シャックル付きワイヤー2本 / 仮置き用角材8本）
- ※ ノズル破損注意



平行に吊り上げを確認後、移動を行って下さい。

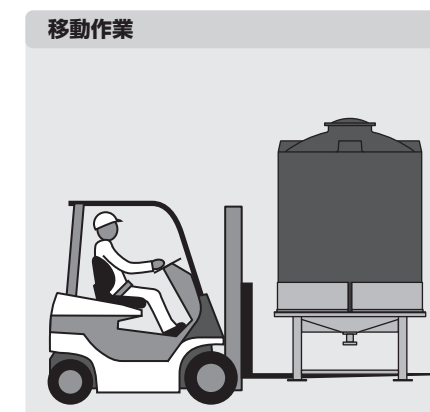
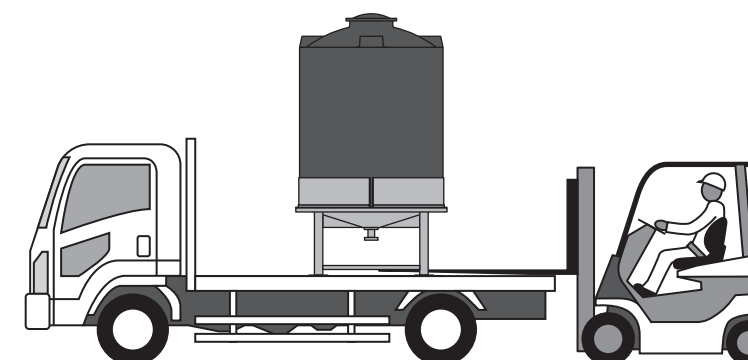
○ HT 3000 以下 ○ OHT 全サイズ

- ※ 架台部をスリングベルト2本で対称4点吊り
- ※ ノズル破損注意



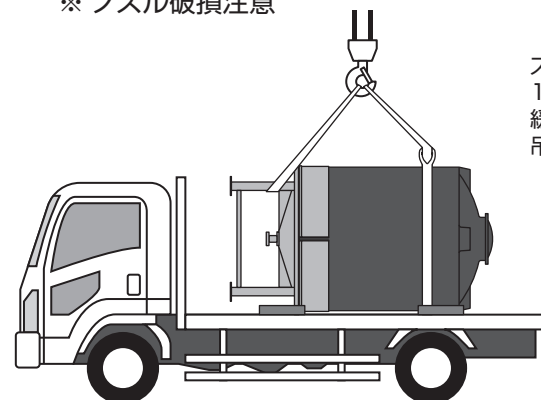
平行に吊り上げを確認後、移動を行って下さい。

- ※ フォークリフトの爪の長さ注意（タンク幅以上の長さで作業をお願いします。）
- ※ ノズル破損注意



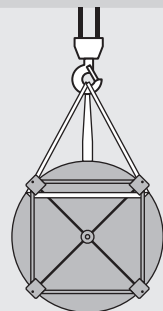
○ HT 4000 ~ 6000

- ※ 荷下ろし時：スリングベルト2本で3点吊り
- ※ 立ち上げ時：天板側スリングベルト吊り（親フック） / 架台部をスリングベルト1本で2点吊り（子フック）の3点吊り
- ※ ノズル破損注意

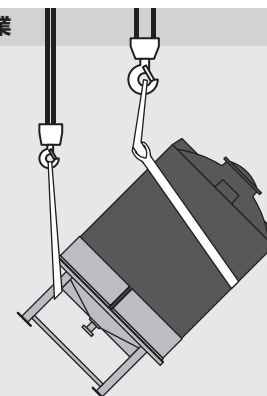


スリングベルトを胴部上
1/3 程度の部分に巻きつけ
緩みを確認後、平行に
吊り上げて下さい。

架台部スリングベルト取付位置



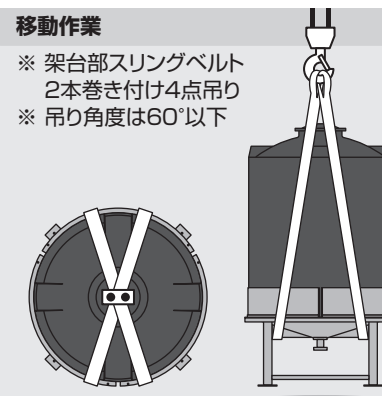
立ち上げ作業



架台部スリングベルトを子フックに付け替えて
下さい。
天板側スリングベルト1点吊り（親フック）
架台部スリングベルト1本2点吊り（子フック）

移動作業

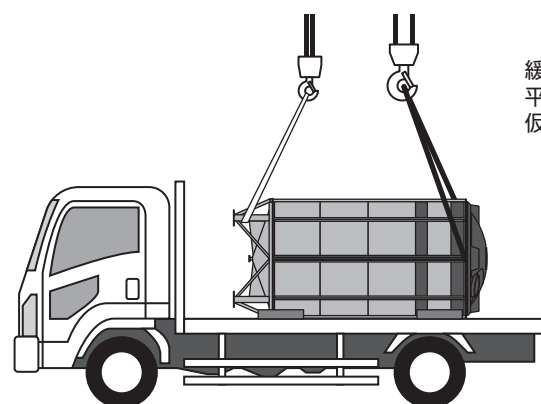
- ※ 架台部スリングベルト
2本巻き付け4点吊り
- ※ 吊り角度は60°以下



平行に吊り上げを確認後、
移動を行って下さい。

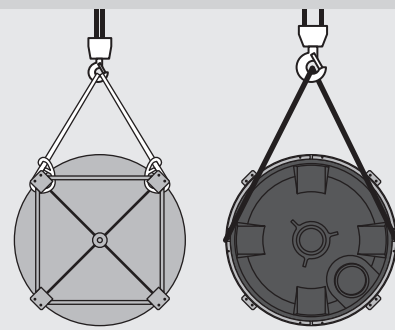
○ HT 10000 以上

- ※ 補強枠のボルトをワイヤー2本で2点吊り（親フック） 架台部をスリングベルト2本で2点吊り（子フック）の4点吊り（吊り金具が標準装備の製品は吊り金具を使用）
- ※ ノズル破損注意



緩みを確認後、
平行に吊り上げ、
仮置きして下さい。

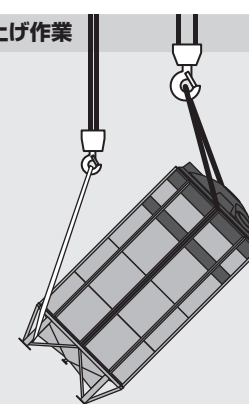
ワイヤー・スリングベルト取付位置



架台側

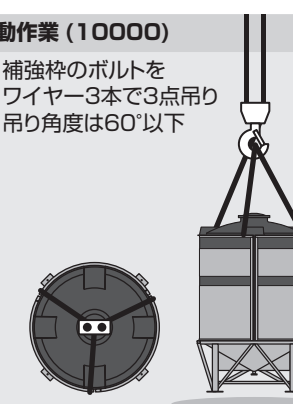
天板側

立ち上げ作業



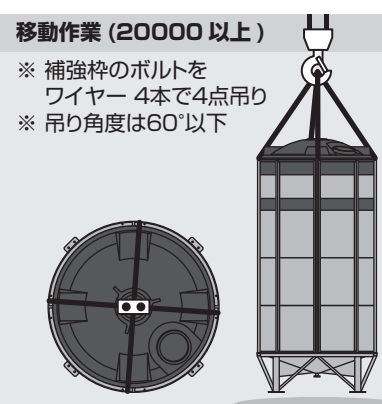
移動作業 (10000)

- ※ 補強枠のボルトを
ワイヤー3本で3点吊り
- ※ 吊り角度は60°以下



移動作業 (20000 以上)

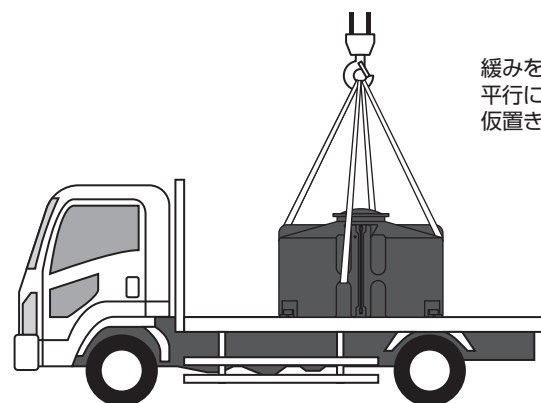
- ※ 補強枠のボルトを
ワイヤー4本で4点吊り
- ※ 吊り角度は60°以下



平行に吊り上げを確認後、移動を行って下さい。

○ MTF 全サイズ

- ※ 側面貫通部をスリングベルト4本で4点吊り
- ※ ノズル破損注意



緩みを確認後、
平行に吊り上げ、
仮置きして下さい。

移動作業

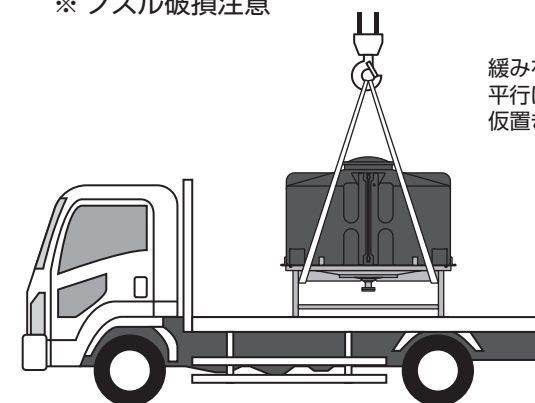
- ※ 側面貫通部をスリングベルト
4本で4点吊り
- ※ 吊り角度は60°以下



平行に吊り上げを確認後、
移動を行って下さい。

○ MTT 全サイズ

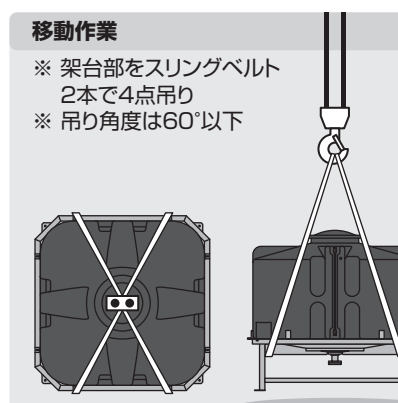
- ※ 架台部をスリングベルト2本で4点吊り
- ※ 側面貫通部は吊り上げなどに利用しないで下さい。
- ※ ノズル破損注意



緩みを確認後、
平行に吊り上げ、
仮置きして下さい。

移動作業

- ※ 架台部をスリングベルト
2本で4点吊り
- ※ 吊り角度は60°以下

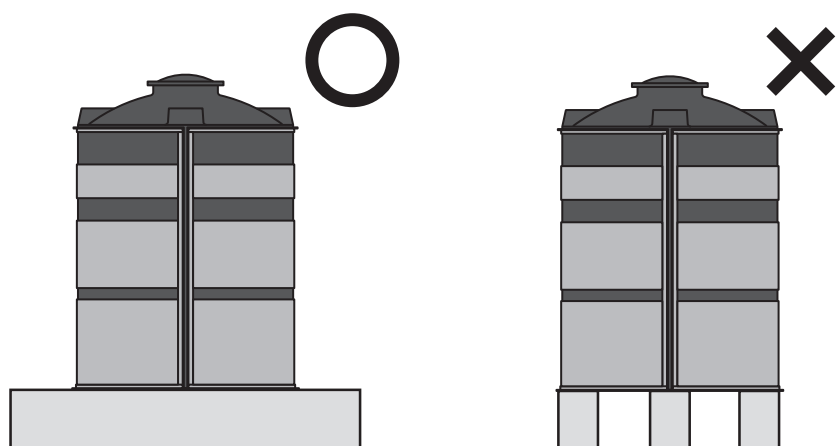


平行に吊り上げを確認後、
移動を行って下さい。

設置について

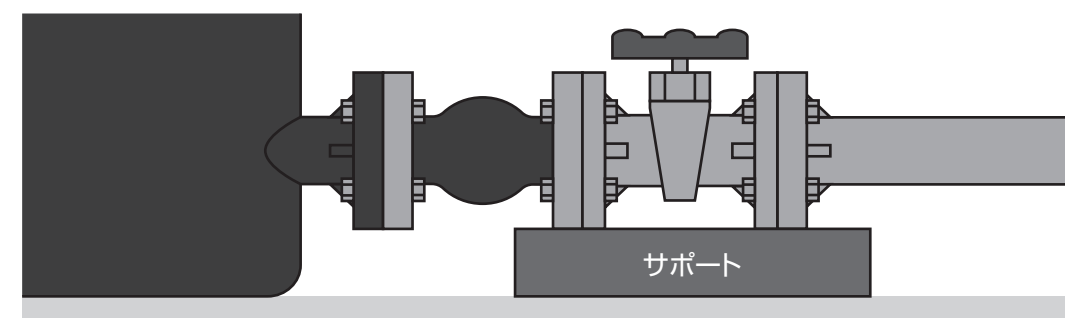
設置基礎面の確認と注意

- ・ 全面支持の基礎面となっていることを確認して下さい。
 - ・ 基礎面は平滑で突起がないことを確認して下さい。
 - ・ タンクの寸法公差が±1.5%ありますので、アンカーボルトの先打ちはしないで下さい。
- ※ 耐熱仕様タンクの場合は、14 ページをご確認下さい。



配管・サポートについて

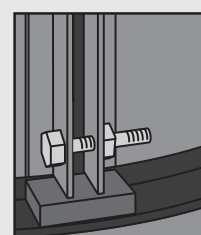
- ・ ポリエチレンタンクは液の増減や温度変化等により膨張・収縮が起こります。配管を完全に固定するとノズル取り付け部分に負荷がかかり、変形破損の恐れがあります。側面及び天面のフランジ接続は直接負荷が掛からないよう、全てのフランジに伸縮継手を取り付けて下さい。
- ・ 側面フランジにバルブ・計器等の重量物を取り付ける際は下図のようにサポートを取り、側面フランジに負荷が掛からないようにして下さい。
- ・ フランジ接続の際は相互の中心を出して取り付けて下さい。
- ・ フランジの締め付けボルト・ナットは均等に締め込んで下さい。
- ・ 125A 以上の融着フランジには付属の当て板 (SUS 製) を取り付けて下さい。
- ・ ポリエチレンタンクには寸法公差があるため鋼管やライニングの配管を使用する際はご注意下さい。



部品 (付属品) について

(1) タンク設置後の確認と注意

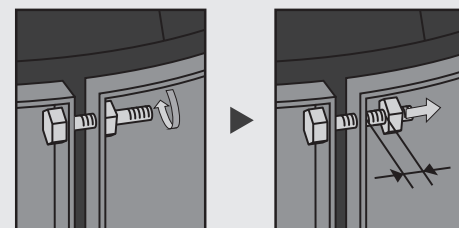
- ・ タンクに取り付けたフィッティングは、輸送中にナットが緩むことがあります。組立て・配管前に必ず緩みが無いことを確認して下さい。
 - ・ MC-1500 以下枠付き製品に付属のズレ落ち防止スペーサーは使用中も**取り外さない**でください。
 - ・ 補強枠付タンクは輸送中のずれや破損を防ぐため強めに締め付けてあります。そのまま設置しご使用になると、タンクが膨張し変形する恐れがありますので、設置後、補強枠のナットを下記表のとおり全て緩め、水張りを行いアンカーの位置を決めて下さい。
- 直射日光が当たる場合、タンクの膨張が特に大きくなりますので注意して下さい。



ズレ落ち防止スペーサー

※下記表の数値はあくまで目安となります。ボルトの長さが足りず下記表の数値を緩めることができない場合はボルトのネジを3山程度残すところまで緩めて下さい。

タンク容量	50000~30000	20000~15000	10000~8000
ナットの緩め代(mm)	8~12	7~11	8~12
タンク容量	6000~3000	2000・1500	1000以下
ナットの緩め代(mm)	7~10	8~12	4~8



- ・ フィッティングのナットを締めるときは反時計方向に回して下さい。ナットを締め過ぎるとねじが破損する恐れがありますので注意して下さい。
- ・ ツバ付きフランジをフィッティングに取り付けるときはツバのパッキン全面が当たるようにねじ込んで下さい。(ネジにはシールテープを巻いて下さい。)
- ・ 輸送中や荷下ろし、設置作業中についた補強枠等金属部品の塗装部の傷は、同送のタッチアップペイントで補修して下さい。

(2) 液面計

- ・ 液面計は輸送中の破損などを防ぐため、取り外し同送いたします。
- ・ 取り付けには同送しているパッキン・ボルト・ナットをご使用下さい。
- ・ 液を入れる際にはゲージバルブのタグに記載の「注意事項」をお守り下さい。

(3) 梯子・保護柵・攪拌機架台

- ・ 梯子・保護柵・攪拌機架台等は輸送中の破損などを防ぐため、取り外し同送する場合があります。取り付けには同送しているボルト・ナットをご使用下さい。
- ・ アンカー用の穴が開いている場合は必ずアンカーボルトを打って下さい。(アンカーボルトは別売りです。)

2 使用上の注意

■ ご使用の前に

(1) 使用条件の確認

- ① 予め定められた条件(液比重・液温など)を遵守して下さい。
- ② **大気圧**でのご使用を原則とします。
- ③ 最高使用温度

補強枠なしタンク	40℃ まで
補強枠付タンク	60℃ まで
HT/OHTタンク	40℃ まで
耐熱仕様タンク	常時 80℃ まで

(2) 水張りテスト

- ① ご使用前には水張りテストを行いタンク・ノズル・配管接続部からの漏れが無いことを確認して下さい。
- ② 水張りテストに使用した水は完全に除去して下さい。薬品(特に硫酸など)によっては、残った水と反応して発熱を起こし、タンクの変形・破損等の事故につながる恐れがあります。

(3) エア抜き

タンクを使用する際は、エア抜きを開放にしてタンクに加圧・減圧がかからないようにして下さい。密閉状態での加圧はタンクが膨らみ、減圧は天板の落ち込みや胴体のへこみ等の変形の原因となります。

■ 禁則事項

(1) 火気について

- ① タンクはポリエチレン製です。熱に弱いので火気を近づけないで下さい。
- ② 補強枠に溶接・ガス切断などを行う際は、タンクから補強枠を外しタンクを防災シートなどで十分に保護して下さい。
- ③ エンジン等、高温になるものをタンクに近づけないで下さい。タンクの変形・穴あきの原因となります。

(2) 衝撃について

- ① タンクをたたく・器物をぶつける等の衝撃を与えないようにして下さい。
- ② ノズル・配管等に器物をぶつける等の衝撃を与えないようにして下さい。

(3) 荷重について

- ① ポリエチレン部分には過重量の負荷をかけないで下さい。変形・破損の恐れがあります。
- ② ノズル・配管等に過重量の負荷をかけないで下さい。液漏れの恐れがあります。

(4) 設置後の移動について

- ① 内容液が入った状態での吊り上げ、移動は行わないで下さい。破損、事故に繋がります。

■ ローリー車からの充填

- ① 充填の際、エア抜きは必ず開放にして下さい。
- ② ローリー内に残液が少なくなると空気が混入し始め、ローリーホースや配管が振動します。その際は、速やかにローリーの元バルブを閉めコンプレッサーを停止し、元バルブを徐々に開けて残圧で残りの液を送るようにして下さい。
- ③ 空運転を続けると圧力でタンクが変形し、破損する恐れがあります。
※圧力許容範囲は 加圧 0.98kPa、減圧 -0.49kPa です。

■ 耐熱仕様タンク特記事項

※ 標準仕様の注意事項に加え、耐熱仕様タンクの場合は当項目を遵守して下さい。

(1) 使用上の注意

- ・タンク表面が高温になる場合がございます。火傷などの恐れがありますので、必要に応じて警告表示などの対策を行って下さい。
- ・タンク本体は熱により約1%膨張します。アンカー施工、配管にはご注意下さい。
- ・ヒーターなどによる加温に関してはご相談下さい。
- ・**タンク天板に乗ることはできません。**

(2) アンカー施工について

- ・押さえ金具の場合
タンク本体壁面から10mm程度外側に余裕を持たせて取り付けして下さい。
- ・アンカー穴が長穴の場合
アンカー穴最外部に打ち込み、完全に締め込まずダブルナットでロックして下さい。

(3) 配管施工について

- ・融着フランジ接続の際は必ず付属の当て板(SUS製)をフランジ裏面に取り付けして下さい。
- ・配管、バルブなどのサポートは膨張を考慮し、配管が動く程度にして下さい。

■ 使用条件の変更について

薬品種類・濃度・液温等を変更する場合は予め当社にご相談下さい。
耐薬品性・補強枠等の使用条件を確認いたします。
Webページに耐薬品性一覧表がございます。

URL: <http://www.e-suiko.co.jp/>

営業本部 関西営業所 Tel: **06-6412-5851** 中部営業所 Tel: **052-679-5340**

仙台営業所 Tel: **022-390-7210** 九州営業所 Tel: **096-293-0200**

関東営業所 Tel: **03-5959-0883** 北海道スイコー株式会社 Tel: **011-398-5510**

3 保守点検

■ 点検時の注意事項

(1) 酸欠・中毒事故防止

タンク内は酸素欠乏及びガス中毒危険場所です。

タンクに入る場合は「酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者」技能講習修了者の指示に従い作業を行って下さい。

- ① タンクに入る場合は必ず監視人をつけて下さい。
- ② タンクに入る前に内部をよく水洗いして下さい。
- ③ タンク内で作業する場合は十分換気をして下さい。
- ④ タンクに入る場合は必ず酸素濃度測定及びガス検知を行い、安全確認をして下さい。
- ⑤ 上記②③④が不可能な場合はエアライン又はホースマスクを使用して下さい。

これらのことを怠ると酸欠やガス中毒等の人身事故が起こる恐れがあります。

(2) 転落・傷害事故防止

- ① 高所作業をする場合は必ず監視人をつけて下さい。
- ② 梯子・保護柵等は昇る前に腐食が無いがよく確認して下さい。
- ③ タンクの天板が内容液・ガス等で劣化している場合は、直接乗らないように足場を組んで下さい。
- ④ タンクの天板に昇る場合は必ずヘルメット・安全带等を使用して下さい。
- ⑤ マンホール・点検口などのフタは作業終了後、必ず閉めて下さい。

これらのことを怠ると転落等の傷害事故が起こる恐れがあります。

タンクの保守・点検・清掃作業にあたっては、労働安全衛生法・同規則に則り安全に十分注意して行って下さい。

保証規定（保証期間と保証範囲）

■ 保証期間

保証期間については、納入日より1ヶ年と致します。

■ 保証範囲

上記保証期間中に問題が生じた場合は、無償にて修理又はその代替品を速やかに納入いたします。

但し、次に該当する場合は、この保証範囲から除外させていただきます。

- (1) 天災地変、不可抗力、取扱説明書に則さないご使用により欠陥が生じた場合。
- (2) 製品の誤使用や取り扱い不備、使用者の故意・不注意による故障又は損傷の場合。
- (3) お客様自身による修理や改造に起因する故障又は損傷の場合。
- (4) 納入後、金属部に発生した錆や腐食の場合。
- (5) その他弊社の責任によらない故障又は損傷の場合。

■ スイコータンク 点検実施項目

点検実施日 / / 点検作業者名

① 日常点検(内容液の投入及び排出時)

点検箇所	✓	点検内容	想定される原因	対応・処置
タンク本体		変形(膨らみ・凹み)が無い	外気温の上昇	補強枠の締付け調整
			加減圧による負荷	エア抜き点検清掃・ローリー圧の調整
			油脂等の混入	内容液の確認、状況により交換
配管		配管接続部の液漏れが無い	フランジの固定不良	ボルト・ナットの確認
			パッキンの劣化	パッキンの交換
			ノズル、取付部の劣化	部品の交換、製品の交換
液面計		液位の確認・パイプの曇りが無い	内容液による劣化	清掃・パイプの交換

② 月次点検

点検箇所	✓	点検内容	想定される原因	対応・処置
タンク本体		外層面に白変、ひび等が無い	紫外線、使用環境による劣化	製品劣化診断(必要に応じて製品の交換)
補強枠・梯子		塗装の剥離、軽微な錆や腐食が無い	使用環境による劣化	補修・塗装
		極度の腐食、部品の欠損が無い	使用環境による劣化	部品交換(必要に応じて本体の交換)

③ 年次点検

点検箇所	✓	点検内容	想定される原因	対応・処置
上記①・②				
タンク内部		洗浄・乾燥、内面のキズ劣化が無い	内容液による劣化	状況により交換
アンカー		腐食などによる劣化が無い	使用環境による劣化	補修・交換

備考

4 アフターサービス

■ リサイクル処分について

※広域認定制度 認定番号第195号

弊社ではお客様で不要になった製品を自社回収し、リサイクルするシステムを確立しております。

環境に配慮されるお客様の廃棄物の削減にご協力することが可能です。回収された製品は処理業者にてマテリアルリサイクルされ、新たな樹脂製品や金属原料に生まれ変わります。

※引取可能な製品はスイコー株式会社が製造・販売を行った製品に限ります。

当社では安心、安全に製品をご使用いただくためアフターケアとして無料で

「**タンク劣化診断 (FT-IR)**」を行っております。交換時期の目安にお役立て下さい。

■ タンク劣化診断 (FT-IR)

スイコーでは製品をより安心・安全にご使用いただくために、アフターサービスとして無料で製品の劣化診断を行っております。

測定用の試料はタンク表面をサンプリングペーパーでこするだけで簡単に採取でき、運転・稼働を止める必要がありません。

測定結果は劣化状況に応じて5段階のレベルで報告いたしますので、設備保全・交換時期の参考データとしてご利用いただけます。

また、測定結果を視認できるように、直接タンクに貼付できるシールを発行いたします。

診断方法

FT-IR (フーリエ変換型赤外分光) 分析

特定波長の赤外線を吸収する化学構造を読み取り、データ処理を行うことでポリエチレンの劣化時にみられる「カルボニル基」を測定し、現在まで蓄積したデータと総合的に検証して劣化具合をレベル1～5の5段階で判定しております。

※当サービスは主に「紫外線によるタンク表面の劣化」を測定する簡易診断です。

建屋内に設置しているタンクでは使用年数にかかわらず「劣化していない」結果が多数となります。